

# 名教自然会ニュース No.6

## 横浜国立大学理工系学部同窓会

### ご挨拶

名教自然会会長 永井 孝雄  
(工学部金属工学科 1974年卒)



永井会長

この春、ご卒業される学部生、修了される大学院生、並びにご入学される合格者の皆様に祝意とご挨拶を申し上げます。

名教自然会は、伝統ある横浜国立大学工学部・理工学部と新設された都市科学部の学科・EPの各同窓会を取りまとめるとともに、既存の同窓会に所属しない新設の学科・EPの同窓会機能を受け持つ団体として2015年に設立されました。最終ページに理工系同窓会と学部(学科・EP)の関係をまとめた表を掲載しましたので、ご覧ください。

本会は、教育学部の友松会、経済学部・経営学部の一般財団法人富丘会、横浜国立大学校友会と連携して学生支援などの母校の発展に寄与する事業を行っています。

昨今は、残念なことに新型コロナウイルス感染症のため、昨年は入学式・卒業式等の大学行事のほか、学生支援事業の新生歓迎会や横浜港ナイトクルーズも中止になりました。また、昨年11月開催予定の理工系創立100周年記念事業の記念式典等が今年の11月20日土曜日(於キャンパス内教育文化ホール)に延期されました。今年こそは開催できることを願っております。

このコロナ禍の対応で、急速に増えた在宅勤務とオンライン会議により、業種によって需要の盛衰がはっきり分かれました。ビジネスの形態が変化するので、オフィスへの通勤に対する考え方も変わります。ここにいち早く対応した企業が新しい成長機会を得ることになると思われまます。新卒採用面接も多くの企業がオンラインで行うとの予測に基づいて、今年の同窓会のリクルート支援事業である模擬面接会は1月23日にオンラインで行い大変好評でした。これまで主に人文系志望者が多かったのですが、年々理工系学生の参加者が増えてきています。これは従来の推薦入社だけでなく、自由応募希望者が増加しているためと思われまますので、今後もオンライン模擬面接会・相談会に力を入れて支援します。

もう一つ名教自然会として力を入れている活動に「経営者が語るこれからの企業戦略と若者へのメッセージ」という連携講座(2単位)があります。一昨年10月から開始し2年目が終了しました。理工系学生を多く採用しているグローバル企業のトップに講師をお願いしています。

二度に及ぶ緊急事態宣言発出により、外出時のマスク着用がほぼ義務化されました。花粉症と縁のない私にとってマスクを着けるのは小学校の給食係の時以来でうとうとして仕方がなかったのですが、マスク着用とともに、この間人生で最も手洗い、うがいを励行したこともあってか、風邪などを一切引かず、逆に元気に過ごせていることはありがたいと感謝しております。

皆様も感染対策を励行して感染しないよう十分心掛け、このコロナ禍に負けずに社会生活・学生生活をおくっていただいで活躍されることを切に願っています。



名教自然の碑(登録有形文化財)

# 令和元年度プラウド卒業生

## 元川崎重工業(株) 社長 亀井俊郎氏

弘陵造船航空会 前会長 珠久 正憲



日本造船工業会会長就任当時の  
亀井 俊郎 氏

川崎重工業(株)の社長・会長を歴任され、弘陵造船航空会第8代会長も務められた故亀井俊郎氏が、この度令和元年度の「横浜国立大学プラウド卒業生」に認定されました。

同氏は茨城県水戸市出身で、本学工学部造船工学科を卒業、1955年(昭和30年)に川崎重工業(株)神戸造船所造船工作部の現場技師として会社生活をスタートされます。まさに日本の造船業、重工業が世界をリードする黄金期を迎えようとする頃でありました\*。同氏は学生時代からヨット、謡、茶道、古寺巡りなどと多彩な趣味に入れ込んでおられましたが、川重入社以降はそれらを封印し、2004年5月に業務途上、イタリアのミラノで急性心不全により急逝されるまでの49年間、同社での仕事一筋の人生を送られました。最近頂いた奥様 喜久枝様の書信にも、「…夫は何事にも怖れることも、憂うこともなく、ただ川崎重工(株)の名を背に走り続けた49年間でした。その傍ら、得意とする論文発表の場を数々与えて頂き、この時もイタリアの美しい街コモ湖のほとりの国際会議場での発表を終らせ、帰路途中に自らの舞台の幕を閉じました。…」とあります。

注\* 日本造船業は海軍の平和的技術遺産を基礎に、敗戦後の壊滅状態から短期間に復興し、1956年(昭和31年)英国を追い越し、進水量世界一を達成いたしました。(伊藤正徳「大海軍の遺産」1957年(昭和32年)文芸春秋5月号)

造船からスタートした亀井氏は、次第に生産管理技術を専門とするようになり、造船の世界を離れ鋼構造物全般に係り、新規事業の立ち上げや赤字部門の立て直しに取り組むこととなります。橋梁や鉄骨などをつくる新工場の立ち上げ、碎石機などを扱う事業部の再建、ファクトリー・オートメーション(FA)部門の立て直し、国産ロケットの関連設備事業の立ち上げなど、逆風の中にあっても川重の社業の伸長に大きな貢献を果たしました。同氏は溶接技術や生産管理、品質管理の分野で新技術の導入や多数の特許出願など技術的リーダーシップを執り続けられました。社内ではIE(Industrial Engineering)導入の祖として高名と言われております。

川崎重工を支える多くの事業分野での貢献が評価され、亀井氏は徐々に同社の企業経営に携わることとなり1989年取締役、1993年常務取締役、1995年専務取締役を経て、1997年(平成9年)5月代表取締役社長に就任されます。公共投資の抑制や国際競争の激化によって、受注環境が急速に悪化する中で就任でありましたが、当時のNIKKKEI BUSINESSの記事には、「環境の厳しい時期に社長に指名されたのに、この社長からは1つの恨み言も聞こえてこない。厳しいほど、やりがいも増すと逆境を楽しんでいるようにさえ見える。」と紹介されております。亀井氏の座右の銘は、「失意泰然、得意淡然」(物事がうまくいかなくなっても、焦らず落ち着いて時節の到来を待つべきだ/うまくいく得意の時代には、おごらずつましい態度で当たるべきだ)であったと聞いております。

社長就任以降、1999年の日本造船工業会会長を始め業界の要職を歴任されます。韓国造船業の大攻勢の中での造工会長でありましたが、同氏は日本造船業が引き続き世界の造船業のリーダーとしての地位を保持するためには、先ず技術力を強化する必要があり、その為に取り組むべき課題を従来型の製品に止まらずメガフロート等海洋分野も含めて抽出し、業界を指導されました。その他内閣府総合科学技術会議専門委員、横浜国立大学運営諮問会議委員として科学技術政策、大学教育に関しその改善・活性化に取り組まれました。

同氏の功績は、「プラウド卒業生」の要件を十分満足しており、名教自然会において理工系の他の同窓会の賛同を得て推薦され、令和2年2月に令和元年度「プラウド卒業生」に認定されました。

なお亀井俊郎氏は、2000年の工学部80周年記念誌で「造船学を学んだCEO」として紹介されております。

本記事は、横浜工業会たよりNo.33に掲載されましたものを、著者のご了解を得て、ここに転載するものです。

# 努力と準備のある人に運命の女神は微笑む

令和元年度YNUプラウド卒業生 山田 勝

(株)SHOEI 元社長・会長



この度、横浜国立大学のプラウド卒業生として表彰されました。過去表彰された方々は立派な業績や大学への貢献をされた方々なので、私だと驚いています。今回の表彰は理工学部生の自発的な研究テーマ挑戦プロジェクトであるROUTE支援と先生方や大学院生の海外論文投稿や発表の支援として合計1億円の大学基金への寄付へのご褒美と思っています。また大学からの推薦で国から紺綬褒章と木杯もいただき大変深謝しております。この機会にこのような寄付ができた背景というか道程を少し述べさせていただきます。

私は、昭和44年工学部応用化学科を卒業し三菱商事に入社しました。大学院や製造業に就職するのが一般的な中、当時としては異色だったかもしれませんが自分の得意技は何かどんな仕事に向いているか考慮した結果海外での仕事やプロジェクトの組成など変化のあるダイナミックな仕事内容に惹かれたことからでした。3年生ぐらいから毎日日本経済新聞を講読し経済、経営の知識も蓄えてスクラップブックも作りましたが、決して化学の勉強を疎かにした訳でなく、友人Y君と3年の夏休み1ヶ月の松山のM石油の工場実習も経験しました。三菱商事入社後は新聞講読の準備もあり当初より評価をいただき化学品関連では人気の独国三菱に転勤となりました。オイル危機の直後で厳しいビジネス環境で現地スタッフの減員という今でいうリストラもせざるを得ませんでした。気持ちは前向きで大学時代から引き続き日本化学会会員を維持し定期的に学会誌の「化学と工業」を送って貰いトピックスや新製品の英訳後ニュースレターとして配布し、取引開拓に励んだのも今は良い思い出です。

帰国後も与えられた仕事に満足せず失敗もありましたが製造業と海外合併をしたり不振子会社の再建に積極的に手を挙げるなど他の人が望まない仕事にも前向きでした。その間大小の企業の経営者とも親しくなり大いに勉強になりました。特にトヨタや関連の方からのTPS（トヨタ生産システム）については目から鱗で製造業の奥深さを知り、機会があったら製造業の経営をやってみたいという気持ちが強くなりました。特に企業の再建ビジネスに興味を持ち続けた結果47歳の時ヘルメットメーカーのSHOEIが破綻して会社更生法を申請し再建スポンサーと管財人派遣の依頼が舞い込みました。私以外の上司や部下は何の興味を持ちませんでしたが、一方私にとっては来た、来たと思いい調査の結果宝の山かも知れないと結論し会社を説得して三菱商事として初めての管財人派遣が認められました。

再建は、順調に進み3年後に管財人のまま本社の部長となりましたが、リコール問題なども出て中途半端な仕事は良くないと判断し転籍を上司に相談しました。しかし上司からは、次の本部長は君なのだからと強く反対されましたが結論としてご理解いただき退職、転籍が決まりました。給与は裁判所が決める訳で40%のダウンとなりいわゆる一流企業の昇進機会も捨てやり甲斐を選択したという話です。周囲にとっては理解の外かも知れませんが私にとっては正しい判断と確信しており、その後再建は順調に進み『情操と合理のバランス経営』を旗印として自分の会社は自分で守るという精神の下、当時としては最短の5年半での更生計画は終結となりました。

これを機に積極的に設備更新や工場リフォーム、新棟建築、増築を行い原価低減、高級品へのシフトを行うことで証券市場への上場も視野に入っていました。そこで資本政策としてスポンサーとなって頂いた三菱商事の保有株を私を含め役員、取引先の協力を得てバイアウトして独立企業となりました。この結果上場基準を満たしジャスダック、東証1部へと上場を果たす事ができたのです。

その後も山谷はありましたが無借金の高収益企業に変貌。現在時価総額が1,000億以上となる世界一の高級ヘルメットメーカーとなったのです。当然私の商事からの退職金や銀行借り入れによる投資は大きな利益を生む結果となりました。そこでこのようなストーリーの原点にある母校への恩返しとして寄付をさせて頂いた次第です。

現在75歳3年前にSHOEIの健全な成長力を確認して会社を後輩に託し引退しました。常に人が喜んでくれることが自分の幸せという事を念頭にこれからの人生を歩みたいと思っています。

# 名教自然と東海同窓会のあゆみ

横浜国大工学系東海同窓会 会長 八田健一郎  
(1977年学卒・1979年修了)

本東海同窓会は、名古屋を中心に主に東海4県、愛知・岐阜・静岡・三重の会員で構成されています。ものづくり中部とも言われる地域で会員の多くが母校で学んだ工学の道で活躍しています。2016年には、旧名称「横浜工業会東海支部」を現名称に改変し、兄弟会の横浜国大工学系近畿同窓会、経済経営系の東海富丘会とも交流を続け現在に至ります。初代会長は、萩原電気工業社（現在の萩原電気ホールディングス株式会社）を1948年に創業された萩原忠臣先輩（1911生～2011没）です。以来、70年程の歴史があります。私自身は、神谷昭司先輩（1929生～2017没）会長の1990年代から本同窓会と深く関わるようになりました。その当時は、母校前身の横浜高等工業学校初代校長の鈴木達治先生に直接学んだ先輩がいらっしゃり、弘明寺校舎正面にすっと聳える名教自然の碑の由来を卒業後に初めて知る機会を得ました。私は機械工学科で鈴木煙洲（達治）先生のエピソードを詳しく知る機会に恵まれませんでした。同窓会には、煙洲会長の村松四郎先輩もお招きし、歴史を伺い、名教自然に込められた想いに感銘を受けました。関東大震災後に煙洲先生が購入させたドイツ・ベヒシュタイン社製グランドピアノの終戦後火災での救出劇も知る機会を得ました。このように諸先輩方のお話しには、自由で闊達に学び、戦争の時代を経て逞しく歩まれた姿が魅力的でした。私の母校での生活は、第1次と第2次オイルショックの間にすっぽりはまります。学内で内ゲバ騒動や、門前に機動隊車両待機もありました。その後、1990年頃までは、諸先輩方の頑張りに導かれた発展の時代になりましたが、所謂バブル崩壊以降の日本は、政治経済が混迷の時代から抜け切れていないように見えます。母校は、時代の要請に応え逞しく発展を遂げ、昨年には創立100周年を迎えました。100年前とは、奇しくもスペイン風邪の大流行した時期であり、現在の新型コロナウイルス禍と重なります。この感染症は、我々の日常生活への影響だけでなく、同窓会活動にも少なからず打撃を与えました。毎年8月に開催し12回を数えたサマーパーティーを昨年は中止しました。また、役員打合せは対面を減らし、Zoom打合せなどにしました。しかし、活動への制約ばかりと単純ではない事にも気づきました。中国に赴任した会員からも初めてリモートで参加いただき、東海地区という制約を越えて縁を繋げられた事でした。本会への若手の参加促進が課題である最中、一つの希望を感じる事例でした。社会に出て少し落ち着いた世代の若い世代を対象に同窓会に関心を感じるような発信を模索中です。若い世代のアンテナに届くような新しい手段とコンテンツの検討が絡についたところです。母校の開放的かつ先進的な精神の中から、次の世代に感動を与え、伝えられるものを捉え直したいとも考えています。我々東海同窓会の持続可能性を高め、社会の持続的発展に寄与できるように、これからも歩みたいと決意を新たにしています。

私たちのホームページも覗いてみてください。⇒ <https://ynu-eng-tokai.com>



2019年サマーパーティー



Zoom画面



HPトップページ



2016年サマーパーティー



2019年サマーパーティー学生歌唱

# 横浜国立大学工学系近畿同窓会のご紹介

横浜国立大学工学系近畿同窓会 会長 土本 正明  
(機械S54年卒)

近畿同窓会は、戦前に作られ戦後まで保管されていた横浜工業会支部の旗の下に、「横浜工業会 近畿支部」として、横浜高等工業の先輩方が、昭和24年に再開されたのが始まりです。現在も「名教自然」と表裏となっている、この旗をシンボルとして引き継いでおります。

会の名称は、大学の卒業生が大半を占める時期となってきました、平成21年に「横浜国立大学工学部 近畿同窓会」に改称し、また、工学部の理工学部への改組に伴い、「工学系 近畿同窓会」と改めて、一昨年までに年1回、72回の総会を開催してきました。

例年は、6月平日の夜に、現役世代の卒業生を中心とした交流会を開催し親睦を図っています。最大のイベントは、11月の第4週土曜日に、ご来賓に、工学研究院長、名教自然会会長／横浜工業会理事長、東海同窓会会長をお迎えし開催する、総会・懇親会となっています。そこでは、大学の最新の状況のご紹介をして頂いております。また、毎回、会員の皆様を中心として、様々な分野の話題の講演をして頂く形式をとっております。その他の活動としては、経済、経営、教育の卒業生の皆様との懇親の場として、毎月第二木曜日の夜に開催されている、「二木会」がございます。

昨年1年間は、コロナ禍ですべての活動が休止状態となりましたが、終息後は活動を再開していく予定です。

ホームページ：<http://ynu-dousoukai-kinki.cocolog-nifty.com/> にて情報発信しています。

近畿在住の方、転勤等で来られた方のご連絡をお待ちしています。



2019年11月 第72回 総会・懇親会時 集合写真

# 理工学系同窓会と学部(学科・EP)との関係表

同窓会名		学 部 の 変 遷					
		工学部		理工学部	理工学部(改組後)	都市科学部	
名 教 自 然 会	名教就美会	S24.5 機械工学科		S60.4 生産工学科	H23.4 機械工学・材料系学科 機械工学EP	H29.4 機械・材料・海洋系学科 機械工学EP	
			S45.4 機械工学第二学科				
			S33.4 金属工学科			H23.4 機械工学・材料系学科 材料工学EP	H29.4 機械・材料・海洋系学科 材料工学EP
	国大化学会	S24.5 化学工業科	S37.4 応用化学科	S60.4 物質工学科	H23.4 化学・生命系学科 化学EP	同左	
		S24.5 電気化学科	S52.4 材料化学科				
	水煙会	S24.5 建築学科		S60.4 建設学科	H23.4 建築都市・環境系学科 建築EP		H29.4 建築学科
	弘陵 造船航空会	S24.5 造船工学科	S54.4 船舶・海洋工学科	S60.4 建設学科	H23.4 建築都市・環境系学科 海洋空間のシステムデザ インEP	H29.4 機械・材料・海洋系学科 海洋空間のシステムデザ インEP	
	横浜三工会		S37.4 化学工学科	S60.4 物質工学科	H23.4 化学・生命系学科 化学応用EP バイオEP	同左	
			S42.4 安全工学科				
土木同窓会		S53.4 土木工学科	S60.4 建設学科	H23.4 建築都市・環境系学科 都市基盤EP		H29.4 都市基盤学科	
横浜物理 工学会			H9.10 知能物理工学科	H23.4 数物・電子情報系学科 物理工学EP	同左		
名教自然会 (個人会員)				H23.4 建築都市・環境系学科 地球生態学EP		H29.4 環境リスク共 生学科	
				H23.4 数物・電子情報系学科 数理科学EP	同左		
横浜電子情 報工学会	S24.5 電気工学科		S60.4 電子情報工学科	H23.4 数物・電子情報系学科 電子情報システムEP 情報工学EP	同左		
		S49.4 情報工学科					

## 編 集 後 記

名教自然会ニュースNo.6をお届けします。本号では、永井会長の挨拶に始まり、YNUプラウド卒業生2名をご紹介しました。お2人のプラウド卒業生に通じることとして、「逆境の中にこそ在る好機」を如何にすれば物にすることができるのか、その秘訣を教わった気が致します。有難うございました。また本号で初めて理工系の地域同窓会から二つの会のご紹介記事を掲載させて頂きました。今後、順次、他の地域同窓会につきましてもご寄稿頂き、その活性化の一助にして頂けましたらと考えます。

ご案内の通り、昨年11月に開催されることになっておりました理工系創立100周年記念事業の記念式典等は、新型コロナウイルス感染症の影響により延期となり、今年の11月20日(土)に開催される予定です。一日も早くコロナによる災禍が終息し、通常の活動・生活ができるようになることを、災い転じて福となすことを願って止みません。

令和3年3月1日 名教自然会副会長 編集担当 上ノ山 周

### 名教自然会事務局

〒232-0061 横浜市南区大岡 2-31-2 YNU 大岡インターナショナルレジデンス 105号

TEL・FAX: 045-741-1718, E-mail: ynukogyokai@george24.com

HP: <https://miharukasu.ynu.ac.jp/>